

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	24222001	研究期間	平成24年度～平成28年度
研究課題名	日本目録学の基盤確立と古典学 研究支援ツールの拡充－天皇家・公家文庫を中心に－	研究代表者 (所属・職) (平成29年3月現在)	田島 公(東京大学・史料編纂所・教授)

【平成27年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は二つの課題に向けて行われてきているが、その一つである日本古典学の支援ツールの面では、多くの機関と連携して所期の成果を上げているばかりか、予想以上の成果が上がっており高く評価できる。特に、禁裏文庫や近衛家文庫などとの連携により、その全貌が明らかにされつつあることは、研究者に大きな夢を与えている。

もう一つの目録学の基礎確立については、個々の研究においては優れているものの、総体の展望を示すような研究への取組が更に求められる。目録学が学問史、文化史、知の体系史を考える上で極めて重要な学問であることを示すような研究の進展と、そのことを広く訴える機会を設けることが望まれる。

【平成29年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	天皇家・公家文庫の目録学の構築と古典学の再生を目指して出発した本研究は、集積したデジタル画像と内容目録の公開という画期的な成果を上げた。さらに、資料の形成過程の解明を通して、文庫論・目録学研究というジャンルを構築するなど、予定どおりの成果が得られた。また、古典学研究の支援ツールとしても、近々『日本古代人名辞典』の増補改訂版の刊行が予定されており、今後は目録学の研究の進展と国内外の学会や市民への積極的な発信を期待したい。